

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第22回）議事要旨

1. 日 時 平成21年12月17日（木）13：30～15：40
2. 場 所 自然科学研究機構会議室
3. 出席者 (評議員)
志村議長、川人評議員、笹月評議員、竹市評議員、宮崎評議員、木下評議員、観山評議員、小森評議員、岡田（清）評議員、岡田（泰）評議員、中村評議員、勝木評議員、櫻井評議員、金子評議員、池中評議員、西評議員
(陪席者)
野村監事
(庶務)
鈴木総務課長、平尾企画連携課長、長谷川財務課長ほか
(順不同)
4. 配付資料
 - 1 教育研究評議会（第21回）議事要旨（案）
 - 2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構の平成20年度に係る業務の実績に関する評価結果
 - 3-1 大学共同利用機関法人の組織及び業務全般の見直しについて
 - 3-2 国立大学法人等の中期目標及び中期計画の素案の修正等について（通知）
 - 3-3 中期目標原案・中期計画案一覧表
 - 4-4 中期目標・中期計画（素案）
 - 4-1 平成20年度国立天文台外部評価報告書の概要
 - 4-2 平成20年度核融合科学研究所外部評価報告書の概要
 - 4-3 平成20年度基礎生物学研究所外部評価報告書の概要
 - 4-4 平成20年度生理学研究所外部評価報告書の概要
 - 4-5 平成20年度分子科学研究所外部評価報告書の概要
 - 5-1 機構における役職員給与の改定について
 - 5-2 機構の役職員給与規程等の改正一覧
 - 5-1 大学共同利用機関法人自然科学研究機構が設置する大学共同利用機関の長の選考の手続き及び任期等に関する規程
 - 6-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構大学共同利用機関長選考委員会規程
 - 7 核融合科学研究所における研究組織の再編について（概略）
 - 8 基礎生物学研究所における研究組織の再編について（概略）
 - 9 野辺山研修所の設置について
 - 10 大学共同利用機関法人自然科学研究機構長候補者の決定について
審議終了後回収 国立天文台台長候補者について
審議終了後回収 分子科学研究所所長候補者について

5. 議事等

議事に先立ち、定足数及び配付資料の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

教育研究評議会（第21回）議事要旨（案）が原案のとおり了承された。

2) 機構長候補者の選考結果について

資料10に基づき、議長から次期機構長候補者の選考結果について報告があった。

3) 平成20年度に係る業務の実績に関する評価結果について

資料2に基づき、観山評議員から平成20年度に係る業務の実績に関する評価結果について説明があり、意見交換が行われた。

（主な意見は以下のとおり）

- 評価結果を全体的に見ると、共同利用研究の評価が目につかなかった。共同利用研究についてもっと積極的にアピールすべきではないか。
- 評価を受けるにあたっては、形式だけ整えがちだが、セールスポイントを出すべきである。

4) 第2期中期目標・中期計画について

資料3-1から資料3-4に基づき、観山評議員から第2期中期目標・中期計画について説明があり、意見交換が行われた。

（主な意見は以下のとおり）

- 評価するための中期目標・中期計画となっており、評価システムの改善を提案すべきではないか。
- 例えば、女性研究者の比率を考慮するように努力すべきであるといわれても、働きやすい環境及び職場の整備をすることはできるが、分野的に女性研究者の母数が少ないため無理があり、数値目標とされるのは問題である。
- 評価委員の側に立った目標を考慮する必要もある。事業仕分けでも研究者の一般社会への説明不足が指摘された。予想外の成果が上がったような場合などをアピールすべき。

5) 平成20年度自己点検・自己評価、外部評価について

資料4-1から資料4-5に基づき、観山評議員、小森評議員、岡田（清）評議員、岡田（泰）評議員、中村評議員から各機関における、平成20年度自己点検・自己評価、外部評価について説明があり、意見交換が行われた。

（主な意見は以下のとおり）

- 生理学研究所の評価結果で、個々のレベルは高いが全体のまとまりがないという評価はおかしいのではないかと。論文の交流で、新しい学問分野が生まれてくるのではないかと。
- 確かにこの表現はおかしく、研究所は円満である。他との交流については、既に岡崎統合バイオサイエンスセンターにおいて実施されている。
- 分子科学研究所では、一部の教授が生理学研究所及び基礎生物学研究所と交流している。
- 受けてき教育が違えば、なかなか研究者間の融合ができない。研究者間では、お互いの技術を利用しているだけの場合もある。
- 総合研究大学院大学の学生で、医学部を卒業したのにケミストリーの大切さが解っていて、入学してくる学生もいる。
- 研究グループのサイズが小さいとはどういうことなのか。
- 研究組織の人数が少なく、例えば教授を筆頭に3名程度になっている場合が多いので、もっと人数が多ければ研究の幅が広がると思われる。数人程度の規模になるのは、大学院生が少ないのが原因の一つである。
- どのようにすれば大学院生が増えるのか。ただし、大学院生を増やすだけでは就職の問題も生じる。
- 法人化後に国立大学法人は、大学院生を囲い込む傾向がある。
- 自然科学研究機構は基礎研究が基盤である。一方では応用の研究のこともいわれているが、生理学研究所ではどのような状況か。
- やはり基礎研究がベースではある。我々は医学系の応用研究も促進しているが、臨床がないため困難な面もある。

6) 機構における給与の改定について

資料5-1及び資料5-2に基づき、木下評議員から機構における役職員の給与の改定について説明があり、審議の結果、了承された。

7) 国立天文台台長候補者の選考について

資料（審議終了後回収）に基づき、議長から国立天文台台長候補者の選考について説明があり、審議の結果、了承された。

8) 分子科学研究所所長候補者の選考について

資料（審議終了後回収）に基づき、議長から分子科学研究所所長候補者の選考について説明があり、審議の結果、了承された。

9) 核融合科学研究所における研究組織の再編について

資料7に基づき、小森評議員から核融合科学研究所における研究組織の再編について説明があり、審議の結果、了承された。

10) 基礎生物学研究所における研究組織の再編について

資料8に基づき、岡田（清）評議員から基礎生物学研究所における研究組織の再編について説明があり、審議の結果、了承された。

11) プリンストン大学との国際交流について

議長からプリンストン大学との国際交流協定について説明があり、審議の結果、了承された。

12) 自然科学研究機構シンポジウム（第9回）について

勝木評議員から自然科学研究機構シンポジウム（第9回）を平成21年3月21日に東京国際フォーラムにおいて開催する旨の報告があった。

13) 野辺山研修所の設置について

資料9に基づき、木下評議員から国立天文台野辺山地区にある職員宿舎を、野辺山研修所として改修した旨の報告があった。

14) 次回開催について

次回は、平成21年3月18日（木）13時30分から開催することとされた。